

## 第 6 8 期総代会の概要

(総代の出席状況)

- 総代総数 115 名のうち、出席総代数は 53 名、委任状提出 53 名と合わせて 106 名。

(当信組の経営状況)

### 1. 2022 年度業績

コア業務純益は過去最高の 141 百万円を確保、8 期連続の改善を達成  
剰余金処分——前年同様、4 %の配当を実施

#### ○預金

平均残高——1,061 億円と 1,000 億円を超え前年水準を維持。

- ・証券会社による「顧客分別金」の運用先として、信託銀行経由で当信組の定期預金や譲渡性預金を指定いただくことが多い

#### ○ 貸出金

残高——平残は 183 億円、前年比 8 億円 (4.6%) の増加。

貸出金利息——2 億 1,381 万円と前年比 994 万円 (4.8%) の増加。

〈商品別動向〉

- ・証券会社向けは、既往利用先からの借入金額の増加、利用頻度の向上、利用期間の長期化といったかたちで残高の底上げに繋がる。また為替相場の変動が大きく、FX 系証券会社からの資金ニーズが通期で旺盛に推移。
- ・個人向け——証券担保ローンは商品性の改善により、ストックオプション融資はリピーターの増加や Web 経由の新規申し込みが増加したことなどにより、それぞれ増加。  
証券業界の役職員向け各種ローンはコロナ禍を経て Web 経由での申込みが定着して少額ながら増加。

#### ○ 有価証券運用

運用残高 (平残) ——122 億円と、前年比 17 億円 (16.0%) 増加

利息配当金——1 億 6 千万円、前年比 146 万円増加。国内事業債のほか、Jリートなどのエクイティ物の機動的な購入を実行。

含み益——JPX 株式の含み益が大きく寄与し、引続き 4 億 9 千万円確保。今年度入

り後、市況の回復に伴い、足元 8 億 5 千万近くに回復。

○ 国債等債券売却損益

J リートの売却益とユニゾホールディングス社債の売却損が相殺され、差し引き 218 万円のプラス

○ 経費支出

人件費——2 億 800 万円、前年比 200 万円増加（職員の処遇改善など）

物件費——1 億 1 千万円、前年比 200 万円の増加（システム強化費など）

○ 収益状況

コア業純——1 億 4 千万円（含む日銀特別付利分 3 千万円）、前年比 +1,300 万円。

8 期連続改善を実現

当期純利益——1 億 800 万円（前年比 +1900 万円）を確保

## 2. 2023 年度計画

コア業純は 1000 万円弱の減益を見込むが、これは、収入は増加見込みながら、中長期的な視野に立った人的資本への投資の増加によるもの。

—— 収入は貸出金利息（2 億 1,700 万円、前年度比 +400 万円）、有価証券利息配当金（1 億 7 千万円、前年度比 +800 万円）とも増加を見込むが、人件費は 1200 万円程度増加見込み。

## 3. 定款の一部変更

証券担保ローンの利用者にとっての利便性向上を図る

○ 従来の定款によれば、証券会社の顧客向けの証券担保ローンを利用できる組合員資格については、「東京都、神奈川県、埼玉県又は千葉県の一都三県内に住所または居所を有する者」となっており、転居等により一都三県から転出した場合、組合員資格が喪失することとなっていた。

○ これを以下のとおり、変更。

⇒ 証券担保ローン利用顧客が一都三県内から転出しても、継続的に組合員資格を有す

ることが出来るよう定款の組合員資格を変更し、引き続き融資を希望する顧客は取引が継続できるように改め、顧客の要望に応える。

将来的に一都三県から転出の可能性もある方も、安心して証券担保ローンをご利用ください。

#### 4. 最後に

アフターコロナで社会経済活動の正常化が着実に進行する流れの中、社会的役割をさらに発揮できる金融機関として骨太に貢献して参ります。

同時に、親しみやすい金融機関として、証券界、中央区の皆様方から、お金のことならまず証券信組に相談しよう、と思っ頂けるような身近な存在になりたいと願っています。

——インスタグラムの公式アカウントにて親しみやすい情報発信に努めています。また、私どもの組合員である「きんゆう女子。」鈴木万梨子代表デザインの当信組独自のクリアファイルを作成しました。

今後とも、「仕事は固く、頭は柔らかく」をモットーに取り組んで参ります。より一層のご支援・ご協力を、よろしくお願い致します。